

通信

poco a poco

takagi-piano@mvd.biglobe.ne.jp
http://www.takagi-piano.com

発行人

高木ピアノサービス

六六二〇九六二
西宮市松下町七・四六

電話・FAX

0798-6150151



高木ピアノサービスでは、このニュースレターもついで、新年の挨拶とさせて頂きます。本年も、よろしくお願いたします。

二〇〇八年は、あつと言う間に過ぎました。昔、父親が「年齢と共に、一年一年が早くなつていく」と言っていました。本当に、そう感じ年になりました。

その後、「世界に通用するピアノ造りがしたい」と、一九二六年(大正一五年)ペヒシュタイン社のピアノ技術者「シュレゲル氏」を迎え、現在のピアノの基盤となるピアノ造りが始まったのです。

「ピアノのストラディバリウス」と呼ばれるほどの名器で、第2次世界大戦前は日本における最高のピアノの代名詞であった。ペヒシュタインについてフランツ・リストは「28年間貴社のピアノを弾き続けてきたが、ペヒシュタインはいつでも最高の楽器だった。」クロード・ドビュッシーは「ピアノ音楽はペヒシュタインのためだけに書かれるべきだ。」と言言葉を残している。

「ベルリン・フィルハーモニー」館内は、昼からの演奏会に「チェコフィル」の本番があり、そのリハーサル中だった。ツァーガイドの説明によると、音響効果については、どの客席で聴いても、それほど大きな差が出ないような構造になっているらしい。夜には、「ペルリン・フィルハーモニー」管弦楽団のコンサートが予定されていて、演奏会に行くと決めた。その入場券の値段は、13ユーロ。このチケットに関しては、「どの客席で聴いても...」は、当てはまりそうにもない。しかし、ベルリンフィルが1000円もしないなんて...。こうして、とにかく、晩を待つことにした。

行くことに決めた。その入場券の値段は、13ユーロ。このチケットに関しては、「どの客席で聴いても...」は、当てはまりそうにもない。しかし、ベルリンフィルが1000円もしないなんて...。こうして、とにかく、晩を待つことにした。

今年もよろしく
お願いたします
二〇〇九年 一月



日本のピアノルーツ

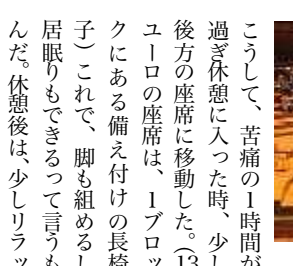
日本でのピアノ造りは明治初期から始まっているが、国産となるのもつとずつと後になり、国産一号と認定されたのは一九〇〇年(明治三十三年)で、日本楽器(後のヤマハ)の「カモンモデル」と言われたアップライトピアノです。

以下、フリー百科事典『ウィキペディア』より「ペヒシュタイン」について抜粋

「ピアノのストラディバリウス」と呼ばれるほどの名器で、第2次世界大戦前は日本における最高のピアノの代名詞であった。ペヒシュタインについてフランツ・リストは「28年間貴社のピアノを弾き続けてきたが、ペヒシュタインはいつでも最高の楽器だった。」クロード・ドビュッシーは「ピアノ音楽はペヒシュタインのためだけに書かれるべきだ。」と言言葉を残している。

「ベルリン・フィルハーモニー」館内は、昼からの演奏会に「チェコフィル」の本番があり、そのリハーサル中だった。ツァーガイドの説明によると、音響効果については、どの客席で聴いても、それほど大きな差が出ないような構造になっているらしい。夜には、「ペルリン・フィルハーモニー」管弦楽団のコンサートが予定されていて、演奏会に行くと決めた。その入場券の値段は、13ユーロ。このチケットに関しては、「どの客席で聴いても...」は、当てはまりそうにもない。しかし、ベルリンフィルが1000円もしないなんて...。こうして、とにかく、晩を待つことにした。

行くことに決めた。その入場券の値段は、13ユーロ。このチケットに関しては、「どの客席で聴いても...」は、当てはまりそうにもない。しかし、ベルリンフィルが1000円もしないなんて...。こうして、とにかく、晩を待つことにした。



ステージ後方が131口の席

クスで、(チョット居眠りもした)バルトークのバイオリン協奏曲を終えた。拍手喝采だった。指揮者がソリストをたたえ、そして、楽団員も立ち上がるよう手で合図をした。一瞬、『ここで団員と一緒に立ち上がったら受けるやらな』と思った。が、できるわけもなく終演となりホテルに戻って一日が終わった。

10月26日
この日は移動日だが、午前中は少し時間があるので、ホテルに荷物を預けて、ペルリン動物園へ行く。ここ、二十年、動物園へは行ったことがなかったが、行けば面白いものだ。動物園を後にすると、いよいよ、ペヒシュタイン社の工場へと向かう。

また違う雰囲気だった。工場の見学も一通り終え、少し質問をして回答を得たところで近くのノイガースドルフ駅まで送ってもらおうかなと迷っていたが、チラッと見かけた駅員さんに、タクシーを呼んで貰うようお願することにしました。どうやら駅舎に住み込んでいる、駅長さんのような人が快く引き受けてくれた。10分もするとタクシーが来てホテルへと向かう。

「良かった、良かった」とても、荷物を持って歩ける距離ではない。この田舎町では、レストランも少ないようなので、ホテルへ着くとすぐに夕食を用意して貰った。

明日、ペヒシュタインへ行くことを告げると、ホテルのオーナーは、「明日も誰かがペヒシュタイン社へ行くから、車に乗らせて貰うといい」と言っていた。どうやら、ペヒシュタインへ訪問する人の大方はこのホテルを利用するようだ。

2時間も電車に乗ったのだが改札口がない。調べられて切符を持っていないと法外な罰金を支払うことになるので、乗り込んでから車掌を見つけて切符を買うか、車中にある券売機で買うことになる。

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶

句の状態だった。早速、ホテルへと電話をしたが繋がらない。どうしようかと迷っていたが、チラッと見かけた駅員さんに、タクシーを呼んで貰うようお願することにしました。どうやら駅舎に住み込んでいる、駅長さんのような人が快く引き受けてくれた。10分もするとタクシーが来てホテルへと向かう。

「良かった、良かった」とても、荷物を持って歩ける距離ではない。この田舎町では、レストランも少ないようなので、ホテルへ着くとすぐに夕食を用意して貰った。

明日、ペヒシュタインへ行くことを告げると、ホテルのオーナーは、「明日も誰かがペヒシュタイン社へ行くから、車に乗らせて貰うといい」と言っていた。どうやら、ペヒシュタインへ訪問する人の大方はこのホテルを利用するようだ。

2時間も電車に乗ったのだが改札口がない。調べられて切符を持っていないと法外な罰金を支払うことになるので、乗り込んでから車掌を見つけて切符を買うか、車中にある券売機で買うことになる。

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶

編集後記

今回のドイツも有意義な旅でした。高木がこうして書く、お客様のの中には、年に何回も海外へ行っている、と勘違いされている方も多いためですが、間違いです。高木は、普通に、質素に暮らしていますから。次号をお楽しみに!

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶

「この日のスケジュールは、チェコとの国境に近い街、ザイフェナーズドルフにあり、この街を目指す。ペルリンからは、ツイッタウを経由して入るルートを選んだ。2回乗り換えて単線の電車に乗る。切符は終点まで買っていたつもりだったが、鉄道会社が違いため、改めて電車の中で買い足した。終点、ザイフェナーズドルフに着いたときには、すでに辺りは真っ暗だった。(夜の7時)ホームの中も駅の回りも真っ暗で、辺りには人影もない。確かに田舎だとは聞いていたが、これほどまでとは...と、絶



ゼンパーオーバー



1855年製のピアノ



バームクーヘンとアイスのセット